

## 協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 085

(2025/26年度 USDA米国農務省 8月12日発表)

## [米国とブラジルの大豆生産/輸出動向推移]

2000年以降、ブラジルは米国と並ぶ穀物生産/輸出国として台頭してきているが特に大豆については米国を凌駕し始めた。

① **ブラジルの大豆生産は飛躍的に拡大**…米国とブラジルは、周知の通りとうもろこしと大豆の生産/輸出数量において厳しい競合関係にあり、とうもろこしについては今月統計では**ブラジルの1.3/0.4億ト**に対し**米国4.3/0.7億ト**と米国が生産量で大きく水をあけているが2020年以降、大豆はブラジルが生産量/輸出量とも米国を凌駕しその**格差を広げ**始めている。

② **ブラジルの大豆生産拡大の背景は「セラード」の大規模開発**…[図1]は2020年以降のブラジルの大豆生産拡大の推移を示しているが2020年に1.4億トに達した生産量は22年に1.6億ト、今年は1.7億トを超える予想である。この拡大をもたらした物はブラジル中西部**マトグロッソ州に展開するセラード開発**である。この地域に於ける大豆生産量は2020年の2千万トから25年には**8千万トと4倍増**、**ブラジル全体の約半分**を占めるまでになった。

③ **ブラジル大豆輸出拡大の最大の相手国は中国**…[図2]はブラジル大豆輸出量推移であるがこれは2020年に8千万ト、23年には初めて1億トを超え今年**1.1億ト**と益々米国との格差を広げている。**輸出先の7割以上は中国**であるが、さながらブラジルは**中国の大豆畑**とも言える。大豆は極めて商品性が高く食肉消費拡大とともに**蛋白原料としての需要**が高まっているが、この事がブラジルの存在感を高め**その集荷網や輸出基地確保の重要性**が増している。

[図1] 主要大豆輸出国の生産量推移



[図2] 主要大豆輸出国の輸出量推移



出典：USDA「PS&amp;D」

## 1. 世界穀物需要の概要 (大豆を除く)

① 生産量：	2,920百万ト (前年比2.6%)	増 ↑	、前月比0.8%	増 ↑
② 消費量：	2,926百万ト (前年比1.5%)	増 ↑	、前月比0.4%	増 ↑
③ 貿易量：	518百万ト (前年比3.4%)	増 ↑	、前月比1.1%	増 ↑

## 2. 小麦

① 生産量：	807百万ト (前年比0.9%)	増 ↑	、前月比0.2%	減 ↓
② 消費量：	810百万ト (前年比0.3%)	増 ↑	、前月比0.1%	減 ↓
③ 輸出量：	214百万ト (前年比3.1%)	増 ↑	、前月比0.2%	増 ↑
④ 在庫量：	260百万ト (前年比1.0%)	減 ↓	、前月比0.6%	減 ↓
⑤ 価格：	<b>\$5.17/Bu</b> (前年\$5.39/Bu / 前月\$5.48/Bu)	と前月比 <b>\$0.31</b> 下落。		
⑥ 概況：	世界の小麦生産量/消費量見通しは前年比インド/EU等で微増、豪州/中国等で微減しているが <b>8億トを超えほぼ安定</b> している。輸出量は前年比約7百万ト増で <b>2億ト台維持</b> 。在庫は消費量が生産量を若干上回り微減。価格は北半球に於ける冬小麦の順調な収穫進展やイスラエル/イランの停戦合意等を受けて <b>前月比\$0.31大きく下落</b> 、今後 <b>\$5を切る局面も想定</b> される。			

## 3. とうもろこし

① 生産量：	1,289百万ト (前年比5.1%)	増 ↑	、前月比2.0%	増 ↑
② 消費量：	1,289百万ト (前年比2.4%)	増 ↑	、前月比1.0%	増 ↑
③ 輸出量：	201百万ト (前年比3.7%)	増 ↑	、前月比2.6%	増 ↑
④ 在庫量：	283百万ト (前年比0.2%)	減 ↓	、前月比3.8%	増 ↑
⑤ 価格：	<b>\$3.90/Bu</b> (前年\$3.87/Bu / 前月\$4.32/Bu)	と前月比 <b>\$0.42</b> 下落。		
⑥ 概況：	とうもろこし生産量は最大の生産国である <b>米国に於ける収穫面積/単収が大幅に改善</b> され前年比 <b>47百万ト (12.6%) 増の4.3億ト</b> との見通しから全体生産量も約13億トまで押し上げられ <b>史上最高見通し</b> 。消費量も伸びている。輸出量は3年ぶりに <b>2億トの台</b> に乗った。在庫量は2.8億トで大きな変動なし。ただ価格はブラジル増産見通しもあり大きく下落し <b>\$4を割り込んだ</b> 。			

## 4. 大豆

① 生産量：	426百万ト (前年比0.6%)	増 ↑	、前月比0.3%	減 ↓
② 消費量：	425百万ト (前年比3.5%)	増 ↑	、前月比0.0%	→
③ 輸出量：	187百万ト (前年比3.1%)	増 ↑	、前月比0.1%	減 ↓
④ 在庫量：	125百万ト (前年比0.2%)	減 ↓	、前月比0.9%	減 ↓
⑤ 価格：	<b>\$9.62/Bu</b> (前年\$10.29/Bu / 前月\$10.56/Bu)	と前月比 <b>\$0.94</b> 下落。		
⑥ 概況：	大豆生産量は、米国/アルゼンチンの減産もあるが <b>ブラジル生産量が175百万ト</b> と前年比 <b>6百万ト増加</b> から <b>史上最高を更新</b> する見通し。消費量は生産量に追いついてきた。輸出量は <b>中国輸入が112百万ト</b> と前年比約 <b>1千万ト増加</b> し前年を更新する見通し。期末在庫は高いレベルを維持している。価格はブラジル/米国の良好な天候見通しを受け <b>大幅下落し遂に\$10を割った</b> 。			

# 世界の穀物・大豆等の需給

2025年8月12日  
米農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2023/24	2,823	3,616	515	2,819	796		
	2024/25	2,847	3,644	501	2,882	762		
	2025/26	7月	2,897	3,661	513	2,913	748	
	2025/26	8月	2,920	3,682	518	2,926	756	
	2023/24		792	1,067	222	797	270	
小麦	2024/25		800	1,070	207	807	263	
	2025/26	7月	809	1,072	213	811	262	
	2025/26	8月	807	1,070	214	810	260	
	2023/24		1,507	1,845	236	1,497	347	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2024/25		1,506	1,854	232	1,542	312	
	2025/26	7月	1,547	1,860	238	1,561	299	
	2025/26	8月	1,572	1,884	243	1,574	310	
	2023/24		524	704	57	525	179	
米	2024/25		541	720	62	533	187	
	2025/26	7月	541	729	62	542	187	
	2025/26	8月	541	729	62	542	187	
	2023/24		397	499	178	383	115	
大豆	2024/25		424	539	182	414	125	
	2025/26	7月	428	553	188	425	126	
	2025/26	8月	426	552	187	425	125	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	284.18	1,263.66	187.76	1,275.76	195.81	272.08
	8月	283.11	1,288.58	192.16	1,289.15	200.86	282.54
アメリカ	7月	34.04	398.93	0.64	323.48	67.95	42.17
	8月	33.15	425.26	0.64	332.25	73.03	53.77
アルゼンチン	7月	2.78	53.00	0.01	15.60	37.00	3.19
	8月	2.78	53.00	0.01	15.60	37.00	3.19
ブラジル	7月	7.99	131.00	1.60	94.00	43.00	3.59
	8月	7.99	131.00	1.60	94.00	43.00	3.59
EU	7月	6.33	60.00	20.50	77.80	3.00	6.03
	8月	6.23	58.00	22.00	77.90	2.50	5.83
日本	7月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
	8月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
中国	7月	195.18	295.00	10.00	321.00	0.02	179.16
	8月	194.18	295.00	10.00	321.00	0.02	178.16
ロシア	7月	0.91	15.00	0.05	11.20	3.60	1.16
	8月	0.91	15.00	0.05	11.20	3.60	1.16
ウクライナ	7月	0.31	30.50	0.01	6.23	24.00	0.60
	8月	0.76	32.00	0.01	6.33	25.50	0.95

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	125.12	427.68	186.06	425.17	187.63	126.07
	8月	125.19	426.39	185.86	425.10	187.44	124.90
アメリカ	7月	9.53	117.98	0.54	72.12	47.49	8.44
	8月	8.99	116.82	0.54	72.05	46.40	7.89
アルゼンチン	7月	24.75	48.50	7.20	50.50	5.00	24.95
	8月	25.25	48.50	7.20	50.50	5.80	24.65
ブラジル	7月	36.11	175.00	0.15	62.30	112.00	36.96
	8月	36.11	175.00	0.15	62.30	112.00	36.96
中国	7月	43.48	21.00	112.00	133.00	0.10	43.38
	8月	43.48	21.00	112.00	133.00	0.10	43.38
EU	7月	1.88	2.95	14.30	16.82	0.30	2.01
	8月	1.88	2.93	14.20	16.82	0.30	1.89

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	263.59	808.55	208.84	810.62	213.06	261.52
	8月	262.70	806.90	209.46	809.53	213.53	260.08
アメリカ	7月	23.15	52.49	3.27	31.54	23.13	24.23
	8月	23.15	52.45	3.27	31.41	23.81	23.64
アルゼンチン	7月	4.94	20.00	0.01	7.30	13.00	4.65
	8月	4.94	19.70	0.01	7.30	13.00	4.35
オーストラリア	7月	4.25	31.00	0.20	8.10	23.00	4.35
	8月	4.25	31.00	0.23	8.10	23.00	4.38
カナダ	7月	3.64	35.00	0.60	8.75	27.00	3.49
	8月	3.64	35.00	0.60	8.75	27.00	3.49
EU	7月	12.36	137.25	6.50	111.00	32.50	12.61
	8月	12.36	138.25	6.50	112.00	32.50	12.61
中国	7月	127.60	142.00	6.00	150.00	1.00	124.60
	8月	127.78	140.00	6.00	148.00	1.00	124.78
インド	7月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
	8月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
ロシア	7月	10.59	83.50	0.30	39.00	46.00	9.39
	8月	10.59	83.50	0.30	39.00	46.00	9.39
ウクライナ	7月	1.59	22.00	0.10	6.60	15.50	1.59
	8月	0.93	22.00	0.10	6.60	15.50	0.93

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。  
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

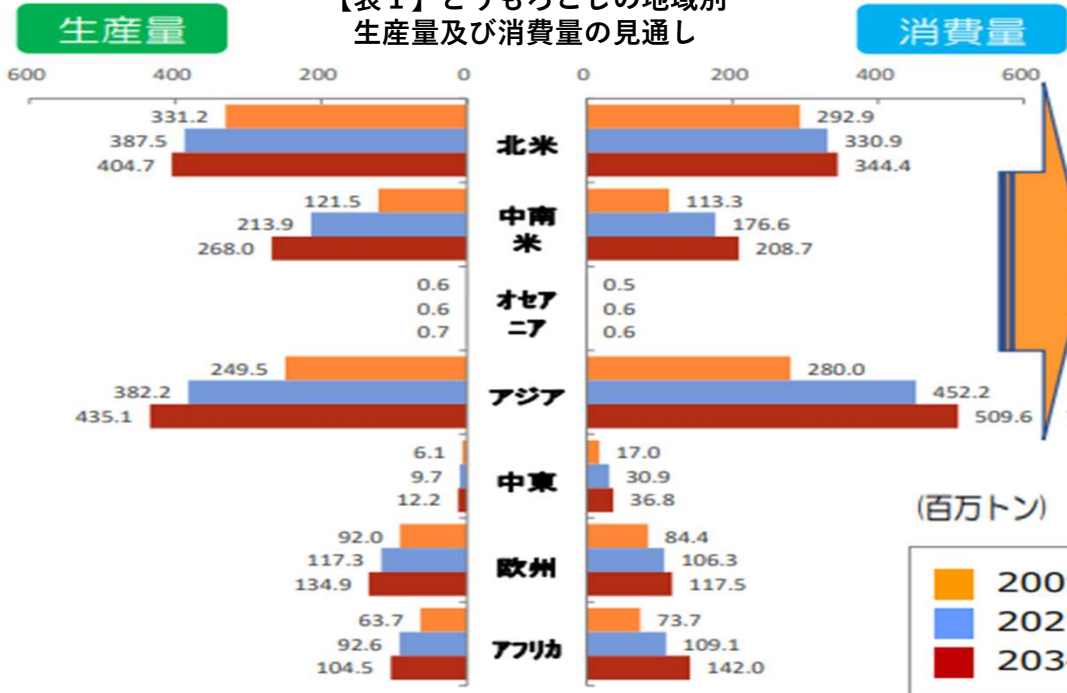
# 世界の穀物輸出を牽引するとうもろこし生産拡大と食肉需要の動向(8)

① 世界のとうもろこし生産量/消費量は畜産物需要拡大を背景に今後とも増加の見通し… 先月号では近年世界有数の穀物生産国にのし上がったロシアとウクライナの現状について述べたが、今回は世界全体のとうもろこし生産/消費量見通しと貿易量の見通しについて見てみたい。[表1]は2034年に於けるとうもろこしの地域別生産量と消費量見通しであるが、**生産量は北米(米国)と南米(主にブラジル)で順調に拡大し2021-23年比で其々約6千万トンを消費量を上回り世界需要への供給余力を確保する見通しである。**アジア(中国)生産量は約5千万トンを増加し4.4億トンを大きく伸びる見通しだが、**消費量はそれを上回り約7千万トンをショートする見通しである。**この二点がとうもろこしの世界的生産/消費の構造的特徴と言える。この間、世界全体とうもろこし生産/消費量は**12.0⇒13.6億トンを1.6億トンを拡大する見通しであるが、その要因は畜産物需要増加に伴う飼料用消費量拡大**によるものが大きく、総とうもろこし消費量に占める飼料用消費割合は**約65%(約9億トン)まで高まる見通しである。**見方を変えればアジア/アフリカを中心とした畜産物需要拡大がとうもろこしの生産拡大を牽引しているとも言える。

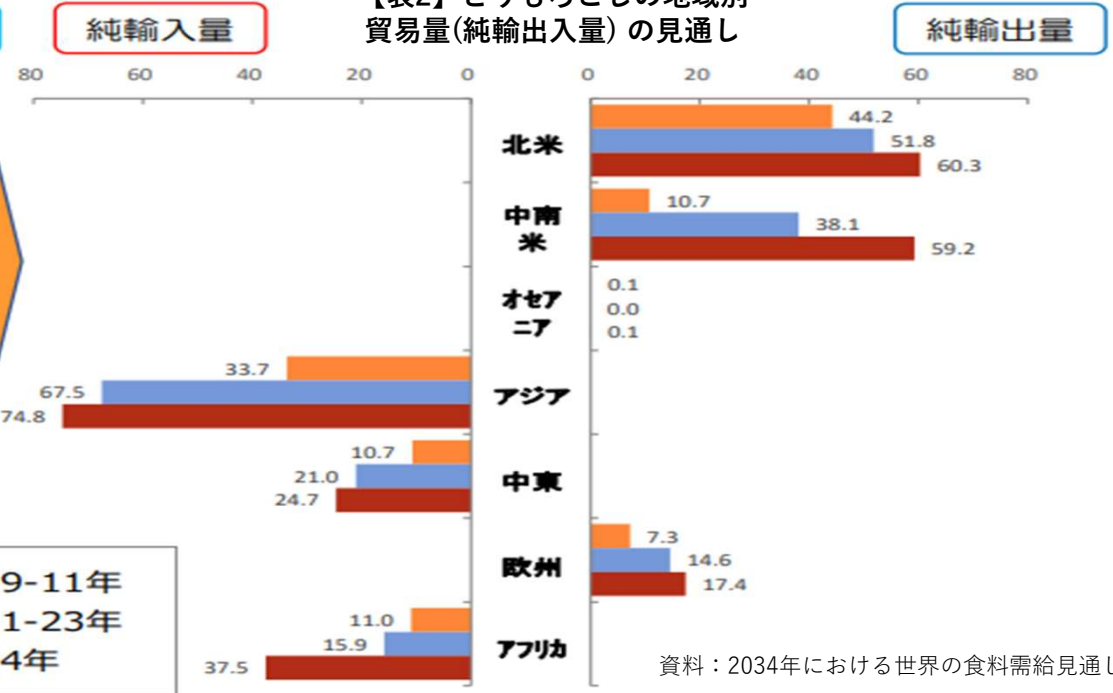
② とうもろこしの生産拡大はアジア(中国)と中東/アフリカの輸入量増大が牽引… [表2]はとうもろこしの地域別貿易量見通しを示したものであるが、2034年見通しの最大の輸入地域は中国が主体の**アジアで75百万トン**、次いで**アフリカ38百万トン**、**中東25百万トン**でこの3地域を合計すると**約1.4億トン**となり、2021-23年比約3千万トンの増加となるが、中でも**アフリカが2.4倍と急増**する見通しである。これはアフリカがとうもろこしの食用需要が約7割と高く、人口増加に伴い全体需要が伸びることも要因になっている。この輸入を支える供給元は前項でも触れた様に、北米(米国)と中南米(ブラジル/アルゼンチン)で**各6千万トンと大半を占める見通しである。**USDAの8月穀物需給見通しによれば、とうもろこし輸出量見通しは2.0億トンとなっているがこの格差は前者が地域内で完結する数量がカウントされていないことによる。

③ とうもろこしの大陸間移動(海上物流)の輸出元は米国と南米(ブラジル)に二極化… いずれにせよ、とうもろこしの大陸間移動を伴う海上物流は輸出地が**北米(米国)と南米(ブラジル/アルゼンチン)の2大産地**となり、仕向け地は中国/日本/インドネシア/マレーシア/フィリピン/ベトナム等のアジア、それにサウジアラビア/イラン/トルコ等の中東、エジプト/アルジェリア/モロッコ等のアフリカ諸国となり**輸出先は多元化**している。また輸出元は2000年当時の米国輸出シェア60%の一極から**現在は米国35%、南米ブラジル22%・アルゼンチン20%**とに**二極化**しているのが大きな特徴である。特に、ブラジルは将来中西部マトグロソ州とその東部に隣接する「MATOPIBA」地域に於ける生産拡大も期待できることから、今後いかにブラジルに於ける穀物の**集荷網と輸出基地を確保**していくかが穀物メジャー等や商社の喫緊の課題となっている。(続く)

【表1】とうもろこしの地域別生産量及び消費量の見通し



【表2】とうもろこしの地域別貿易量(純輸出入量)の見通し



資料：2034年における世界の食料需給見通し